

先日、夫と二人で富田林市にある農業公園に出かけました。お天気でしたが、気温は低く寒い日で園内も閑散としており、私たちはのんびりとした時間を久しぶりに楽しんでいました。

そこは市の公共の施設で、園内には色々な農作物が植えられ、シーズンごとに収穫を楽しめるようになっています。野菜や果物のなり方や、その収穫時期が分かり、楽しみながら収穫体験ができます。12月の時期は、ハクサイやダイコンなど冬野菜の収穫体験が始まっていて、イチゴ狩り体験もこれから本番といったところ。ブドウ狩りとサトイモ掘りは少し前に終了していました。

やはり、子供に体験させたいと思っていらっしゃる方が多いようで、みな子ども連れの方ばかり。しかし、私も少し退屈そうな夫の横で結構楽しんでいました。

ブドウの樹の皮の剪定あとを観察して、なるほど、こんなふうに剪定するのかと思ったり、葉がついているときは自由に伸び放題になっていたように見えた枝が、どの樹の主軸も同じ方向へ等間隔に整然と誘引されていて美しかったり。冬しか見ることの出来ない景色に、色々と感動していました。



園内標識



ブドウの樹（全てが同じ形）

ブドウ畑のとなりにはミカン畑があり、収穫が終盤のこの時期は食べ放題となっていました。

私「ミカン綺麗だね。そう言えばミカン狩りって、ブドウやイチゴほど食べきれなかった記憶があるなあ。」

夫「俺、ミカン狩りしたことがないな」

私「本当？1つもいで食べてみる？」

夫「いいよ、汚いよ」

私「ええ？何が？」

夫「だって、虫とかはいっていそう・・・」

大丈夫だよ！と思わず言いましたが、几帳面なところがあるのは知っていたけれど、ここまでは。損な性格だなあ～、私なんて「ミカン食べ放題」と聞いただけで宝の山を目の前にしたような気持ちになるのに・・・、と思いつつ「ほら、虫なんて入っていないでしょ」と1つミカンを夫に渡して、一人宝の山へ。

初め退屈そうにしていた夫も、普段あまり目にする事のない景色に興味を惹かれてきたようで、色々と質問をしてくれます。畑を耕すところを見て、土を耕す理由、耕運機と平クワと備中クワの使い分けの理由、畝を立てる理由、水はけを好む野菜やそうでない野菜の違い、などなど。そのたびに簡単に説明しながら歩いていきました。少しばかり寂しげな木枯らしの吹く中、しっかりとした大人のデートになるはずが、いつの間にか質問攻めをする子どもを連れて歩いているような感じになってしまいました。

そんな途中ふと思いました。普段こういった仕事に携わっていない人が植物を育てることになったら、どれだけの人がうまく育てられるだろう・・・？と。

小学校から中学校までの義務教育の9年間で、生物の基本的なことは勉強するのに、何かしら一つの植物を育てるということになった時、その知識が応用されないのは何故だろう？

学問は生きるために必要な知識を学ぶことなのに、今の時代、ただ膨大な知識を頭に入れることだけが先行していて、学生と接していても、実際に生きるための手段としての「知恵」が身につけていることの少ないように感じる事が多い毎日。

私の勤める専門学校は、卒業後すぐに就職という場が待っています。社会はいわば広大な海原。その海原を渡るための「知恵」が、就職という場ですぐに試されます。専門学校というリハーサルのおし、海原を渡るための道具の種類や扱い方、また仲間のコミュニケーション方法などの応用力を学んでもらいたい・・・。テストの点だけでは判断してもらえないのが社会だから・・・。

若いうちに色々なことを見て聞いて実際に体験して、生きる強さを身につけてほしい。

冬の寒い散歩道の途中、夫の意外な一面の発見から、こんなことを考えていました。

果樹も庭木もそうですが、植物はこの時期、春の芽吹きに向けてじっくりと滋養を貯えている。植物だけでなく、人もじっくりゆっくり考えて、中身を充実させるには良い季節だなと感じた一日でした。

井上和恵(大阪テクノ・ホルティ園芸専門学校)

